

トップページまとめ（2022年）（2024. 2. 22-2022. 12. 12）

2022年2月22日

最近の第3波と思われる大寒波と暴風雪に見舞われた方々のお見舞いをしたいと思います。

2022年3月3日

弥生の節句であるひな祭りに際し、予断を許さないけれども、世界の平和が早めに訪れることを祈願したいと思います。

2022年3月11日

11年前に起こった東日本大震災の日に際し、改めて、自然災害・人災・複合災害に対する教訓を伝え、防災・減災対策に対する注意喚起を祈願したいと思います。

2022年3月17日

世界的に感染が再拡大している新型コロナウイルス禍が、早めに収束し、平和な日常生活ができるようになることを祈願したいと思います。

また、新たに起こった震度6の福島県沖大地震で被災された方、亡くなられた方々のお見舞い申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

2022年3月26日

内乱、戦乱が早めに収束し、平和な日常生活ができるようになることを祈願したいと思います。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の実効的な対応が、進展する事を望みたいと思います。また、激甚化する天災・人災・複合災害に対する的確な防災・減災対策が急がれることを、お願いしたいと思います。

2022年4月10日

研究所方針および主宰紹介の欄を更新しました。

2022年4月23日

主宰論説29のpdfファイル

の公開をしました。資源容量・環境容量と環境調和性／持続可能性、花鳥風月（その2）、二刀流とトロイカ（その2）の論考があります。

2022年5月6日

2021年1月～2021年12月のトップページの内容をまとめました。

2022年5月9日

主宰論説 30 の p d f ファイルの公開をしました。

2022年7月12日

リンク集に、日本学術会議を追加させて頂きました。

2022年7月29日

ホームページの一新を行いました。また、研究発表の経過報告を、Facebook の SNS で、記載しました。

【概要】：

2022年7月21～22日、東京都江戸川区タワーホール船堀小ホールで、第33回マテリアルライフ学会が開催された。久しぶりの対面形式の会場方式だった。ポスターセッションもあり、一部、遠方からのオンライン方式の発表もあった。福島敏夫は、「高分子材料の光劣化過程の可視化」の研究発表の連作の一環として、「ポリビニル系高分子材料の光劣化過程の可視化（その6）—半球シェルにおける酸素の外部・外部同時拡散の場合の解析—」当タイトルでの研究発表を行った。近くのビジネスホテルに2泊し、リハビリが功を奏して、老妻に助けられながらも、車椅子を使わず、杖を使いながらも、二足歩行で参加できた。2年前のつくば国際会議場での第31回マテリアルライフ学会以来、PowerPoint を使った会場の投影方式での研究発表であった。今回新型コロナウイルスの変異株感染拡大の第7波の恐れがある中でも、無事に終了し、主催者、参加者ともども、ほっとした次第である。研究会は、対面方式の方が、研究の熱意も伝わり、良いようだ。世相がまだまだ大変ですが、色々な人に助けられながら、無事に研究発表を終えられたのは、幸せだったと考える次第ある。

2022年8月7日

当分、このパソコンだけのリンクにして、スマートフォン版とのリンクや携帯電話版とのリンクを解除します。

2022年8月28日

今年既に研究発表をした項目を、主宰執筆・講演に追加しました。

2022年9月11日

研究発表の経過報告を、Facebook の SNS で、記載しました。

【概要】2022年9月7～8日、トロイカ方式での研究発表の一環として、色々な人に支えられながら、コンクリートの中性化に関する2つの研究発表を、無事終えることができました。9月7日は、北海道で行われた日本建築学会の「材料・施工：中性化」のセッションで、オンラインの形で、「二酸化炭素の多方向拡散過程によるコンクリートの中性化進行過程の可視化（その10）—半球シェルにおける外部及び内部からの同時拡散の解析（No.2 混合セメント使用の影響）—」というタイトルでの研究発表を行いました。また、9月8日は、日本コンクリート工学会、RILEM 共催の「コンクリート構造の再生に関する国際会議（ICRCS）で、やはりオンライン形式で、「Simulation and Visualization of Carbonation of Concrete Based upon New Advanced Numerical Methods Considering Sustainability of Reinforced Concrete Buildings（

鉄筋コンクリート造建築物の持続可能性を考慮した最新の数値解法を用いたコンクリートの炭酸化的シミュレーションと可視化）」というタイトルでの研究発表を終えることができました。いずれも、二酸化炭素に関連したコンクリートの中性化進行の多面的視点に基づく数値解析と可視化の研究成果です。北海道の日本建築学会2022年大会と京都でのRILEMの国際会議は、スケジュール的に重なっており、重要研究

者らは、手分けして、東奔西走したようです。私は、オンライン方式だったので、一日ずれていて、両方研究発表を終えることができました。北海道は、札幌、函館や小樽を訪れた時の思い出もあり、本当は、リハビリが功を奏して、二足歩行も可能になったので、是非訪れたいと思っていたのですが。京都の RILEM 国際会議では、13 年前、関西学術研究都市のエリアにある Keihanna Plaza で行われた第 9 回エコマテリアル国際会議以来 13 年ぶりの英語による研究発表だった。Movie のファイルをあらかじめお送りしてあったので、多少のトラブルにもかかわらず、無事発表することができました。世相は、まだまだ大変ですが、色々な人に助けられながら、無事に研究発表を終えられたのは、幸せだったと考える次第である。

2022 年 9 月 11 日 乙戸南にて 福島敏夫

2022 年 10 月 24 日

研究発表の経過報告を、Facebook の SNS で記載しました。

【概要】

世相は、まだまだ大変ですが、色々な人に助けられながら、無事に研究発表を終えられたのは、幸せだったと考える次第である。10 月 20～21 日、オンライン方式で、日本建築仕上学会の 2022 年大会学術講演会（第 33 回研究発表会）が、開催されました。福島敏夫は、外断熱材料システムの性能評価・予測の一連の研究の一環として、「外断熱材料システムにおける水蒸気移動過程の可視化ー（その 5 半円柱形状外壁への適用）」というタイトルでの研究発表を行った。世相がまだまだ大変な中で、建築仕上技術に関する最新の研究成果の発表があった。今年も、日本建築仕上学会も、国連の提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）に対応した「日本建築仕上学会の SDGs 宣言」を行い、各発表が、17 項目のどれに関連するか、分類分けを行っているのが、特徴である。多少のトラブルにもかかわらず、無事発表することができたのは、幸せだったと考える次第である。

2022 年 10 月 31 日

主宰論説 31 の PDF ファイルを公開しました。

2022 年 11 月 4 日

主宰論説 32 の PDF ファイルを公開しました。

2022 年 11 月 14 日

主宰執筆・講演の欄に、高分子材料の事典のところでの執筆を加えました。

[2022 年 11 月 21 日

主宰著作・論文の欄および link 集の欄で、「コンクリート構造の再生に関する国際会議」での主宰の英語論文の公開をしました。

2022 年 11 月 25 日

link 集の欄に、朝倉書店等を追加しました。

2022 年 11 月 30 日

高分子材料の事典のところでの執筆内容「土木・建築構造材料」の PDF ファイルを公開させて頂きました。

2022年12月10日

主宰論説 33 のPDFファイルを公開しました。

2022年12月22日

主宰論説 34 のPDFファイルを公開しました。